

経営比較分析表（令和元年度決算）

宮崎県椎葉村 椎葉村国民健康保険病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	3	-	ド	救臨へ
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
2,757	2,173	第1種該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

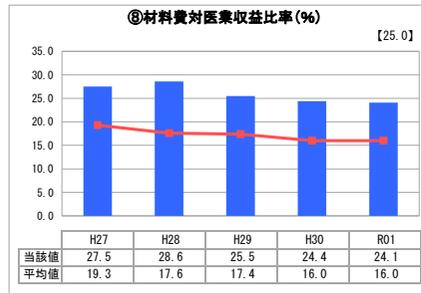
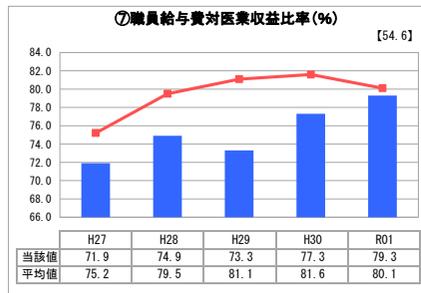
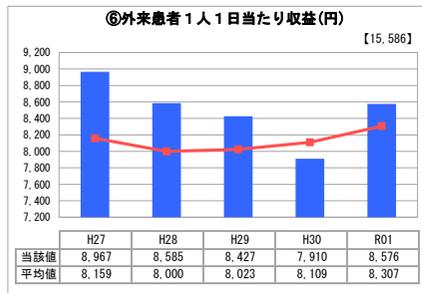
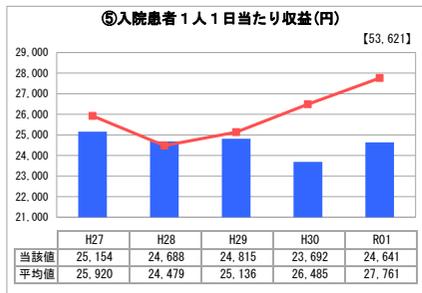
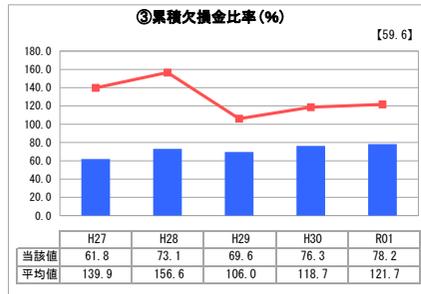
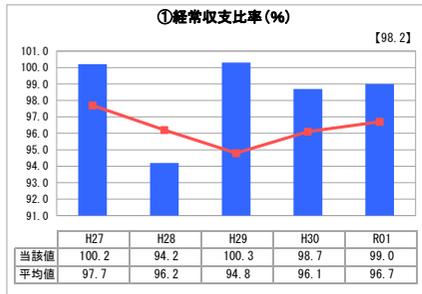
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
30	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	30
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
30	-	30

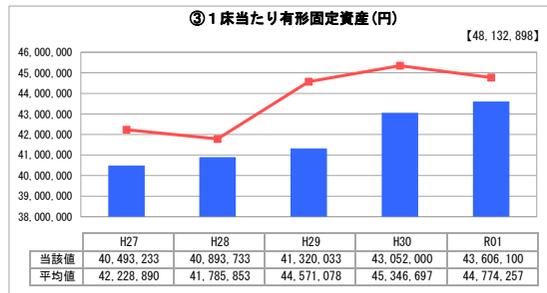
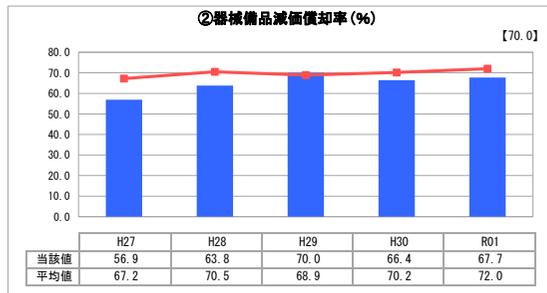
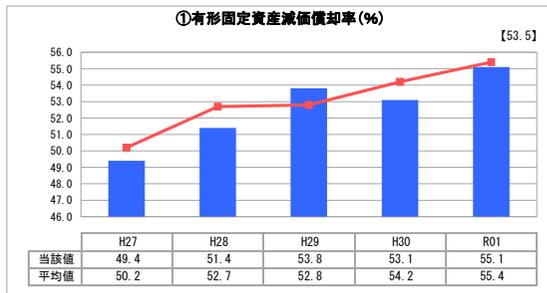
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

当院は、椎葉村内で唯一の病院であり、さらに近隣市町村の最も近い医療機関との距離が30km以上離れていることなどから、本県のへき地医療拠点病院に指定されている。このような状況から、通常の診療のほか、24時間365日体制の救急対応、巡回診療、訪問診療、予防接種、各種健診、福祉施設の回診など、不採算であっても担わなければならない業務を多数抱えており、これらの医療サービスを継続させていく必要がある。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

患者数については、入院、外来ともに若干減少したことにより、医業収益が前年度比で0.8%の減額となった。患者数の減少の主な要因としては、本村の過疎化に伴う人口減少も関係しているが、令和元年度後半に本村で流行したインフルエンザと国内外で新たに流行した新型コロナウイルス感染症により、受診を控える住民が多かったことが大きく影響した。

類似団体と比較して、病床利用率や患者1人1日あたりの収益は低く推移している一方、累積欠損金比率、経常収支比率、医業収支比率については類似病院よりも良い状況で推移している。

2. 老朽化の状況について

現在の施設は、平成7年の新築移転から25年以上経過しており、耐震上は問題ないものの、施設や器械設備の一部に更新時期を迎えていることから、年次計画的に改修や更新に取り組んでいる。有形固定資産や器械備品の減価償却率、さらに1床あたりの有形固定資産額については、類似病院の平均値を下回っており、適切に管理していくことで、大規模改修等の予定はない。

全体総括

本村は、中山間地域の過疎化が進む自治体であり、面積が広大で公共交通機関も十分でないことから、当院を利用する患者は、本村に居住している住民が中心となっている。したがって、患者数の大幅な増加は見込めないものの、へき地医療拠点病院として多機能な役割を果たしていかなければならない。

経営面としては、医業収益はやや減少傾向にあるが、病院改革プランのもと経営の効率化を図りながら、経営の安定化をめざしている。元年度決算で現金預金を含む流動資産が負債を大きく上回る541,924千円となっているため、財政健全化比率や公営企業会計における将来負担比率については基準内となっており、企業債も令和6年度にすべての償還が終了する予定。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。